



かわら版

NO. 20

多度地区小中一貫校整備事業

第3回開校準備委員会開催 『義務教育学校について』

12月18日（土）に第3回開校準備委員会を開催いたしました。本委員会では、今年度、新しく開校する学校の校種について協議しています。今回は、愛知県飛島村教育委員会事務局の職員、私立飛島学園の校長・総括教頭の計3名にお



飛島学園の実践紹介

越しいただき、義務教育学校の具体的な事例をお聞きしました。学校運営する際に大事にしている点や教職員・子どもたちの様子をお聞きすることで、義務教育学校に対する理解を深めることができました。

その後、3つのグループに分かれ、講演を聞いて新たに分かったことや、飛島学園への質問などを行い交流しました。グループから出された質問事項の概要は、裏面の通りです。*飛島学園：平成22年4月小中一貫校として開校した後、令和2年4月義務教育学校となる。

（平成28年4月 義務教育学校を校種に加える法改正が行われた）



グループワークの様子

Aグループ

- 学校の教職員の数は、どのようにして決まっていますか。
- 行事を多く開催しているという説明がありましたが、教職員の負担は大きくないですか。
- 義務教育学校の中で、特別支援教育の進め方について、教えてください。

Bグループ

- 地域や保護者との協力・連携の実情について教えてください。
- 前期課程籍と後期課程籍の教員が乗り入れで授業を進めることに関して、人的なサポート等を教えてください。
- 1人校長としての苦労や喜びについて教えてください。

Cグループ

- もともと飛島村は、小学校と中学校それぞれ1校だったものが、一貫校として統合した理由を教えてください。
- 小学校と中学校が2校あった時代から、一貫型小学校・中学校、そして義務教育学校へと変わってきた中で、具体的にどのような変化がありましたか。
- 4-3-2の学年段階の区切りがある中でも、6年生までの児童会と7年生からの生徒会がありますが、子どもたちは中学生になることをどの程度意識しますか。

飛島学園様には、それぞれの質問に対し、具体的な事例を交えて丁寧にお答えいただきました。回答の概要は、桑名市ホームページをご参照ください。

桑名市ホームページ : www.city.kuwana.lg.jp

ホーム→ 市政→教育委員会→多度地区小中一貫校→多度地区小中一貫校整備事業 開校準備委員会について

<委員長の講評>

飛島学園の校長先生が、多くの写真で学園の子ども達の様子を話されました。上級生が下級生に手ほどきし下級生が上級生に憧れる様子は、本来子ども同士の持つ強いつながりがわかります。総括教頭先生からは、校長が一人になることで小中の教員の同僚意識が強固になったことを伺いました。多度地区においても4小プロジェクトが実施され、将来の通学路の安全対策の検討が始まるなど、独自の準備が着々と進んでいます。子どもたちの9年間の成長をどんな体制で見守るのか、近くに小中一貫校を経て義務教育学校の運営を実施している学園があることは心強いものです。



鈴木賢一 委員長